

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
0 建築物の環境品質									3.5
Q1 室内環境					0.40				3.5
1 音環境				3.8	0.23	-	-		3.8
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-		
1.1.1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-		
1.1.2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音				5.0	0.40	-	-		
1.2.1 開口部遮音性能		開口部は全てT-2のサッシを仕様しているため		5.0	1.00	3.0	-		
1.2.2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	-		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.44	-	-		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
2.1.1 室温				3.0	0.50	3.0	-		
2.1.2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-		
2.1.3 外皮性能				3.0	0.17	3.0	-		
2.1.4 ゾーン別制御性				3.0	0.33	-	-		
2.1.5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
2.1.6 個別制御				-	-	-	-		
2.1.7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
2.1.8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				-	-	-	-		-
3.1 昼光利用				-	-	-	-		
3.1.1 昼光率				3.0	-	3.0	-		
3.1.2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3.1.3 昼光利用設備				3.0	-	3.0	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
3.2.1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
3.2.2 昼光制御				3.0	-	3.0	-		
3.2.3 映り込み対策				-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	-	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	-	3.0	-		
4 空気質環境				4.0	0.33	-	-		4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
4.1.1 化学汚染物質		特記仕様書により家具・塗装・接着剤等は全てF と制限		5.0	1.00	3.0	-		
4.1.2 アスベスト対策				-	-	-	-		
4.1.3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4.1.4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気				2.5	0.30	-	-		
4.2.1 換気量		換気量は1人当り30m3/hを確保		4.0	0.50	3.0	-		
4.2.2 自然換気性能				3.0	-	3.0	-		
4.2.3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	3.0	-		
4.2.4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
4.3.1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
4.3.2 喫煙の制御		全館禁煙とする		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.0
1 機能性				4.4	0.40	-	-		4.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1.1.1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
1.1.3 バリアフリー計画		「建築物移動等円滑化誘導基準」の(望ましいレベル)を満たす		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		
1.2.1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	-		
1.2.2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
1.2.3 内装計画		インテリアパースを作成し、事前検証を行い、場所場所での快適性に配慮する。大多目的室と小多目的室は内装イメージを変え、演出効果に変化を持たせず。ホールはリラックスできる空間として、温かみのある色彩を採用。照明も色温度に配慮し、照明計画を行います。		5.0	1.00	-	-		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保		外部の金属部はアルミ材使用及びフッ素樹脂塗装 1階倉庫1を清掃用具室と管理倉庫とし十分な空間を確保		4.0	0.50	-	-		
1.3.3 衛生管理業務				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.2	0.31	-	-		4.2
2.1 耐震・免震				4.6	0.48	-	-		
2.1.1 耐震性		建築基準法に定められた耐震性の50%増しとして設計する		5.0	0.80	-	-		
2.1.2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.2	0.33	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数		耐震等級3と同等な耐震性を持つ設計とする		5.0	0.23	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外装は磁器質タイルを基本とし30年以上の補修必要間隔とする 内装床は磁器質タイル、タイルカーペット、塩ビシート、内装はタイル、ボード+EP、天井は化粧せつこうボード、ロックワール吸音板などを基本とし、20年以上の更新必要間隔とする		5.0	0.23	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				5.0	0.09	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクトは全てステンレス製		5.0	0.08	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	熱源は電気とガスの二重化とし電気は発電回路対応	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型大便秘器で洗浄水は5.5L/回	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	主要な電気の盤などは2階屋上に計画している	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信の多様化、精密機器の設置は地下を避けている	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1	4.0	1.00	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物の色彩は、周辺景観に配慮します 植栽によって沿道に緑の連続性を確保し、修景に寄与します 隣接する交流棟との連続性、一体性を持って景観を形成します	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	歩道状空地を設置し、地域のコミュニティ性を向上している。	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率を31.7%、外壁、屋根等に高断熱の工法・材料を使用	4.8	0.30	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトを設置し自然光を積極的に取り入れている	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR値=57.3%	5.0	0.30	-	-	5.0
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	5.0				
		集合住宅の評価	3.0				
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング	主要なエネルギーは全てモニタリングし、光熱費削減を実行する	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	消費エネルギーの目標値を設定し、監理削減を実行する	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水こま、節水型大便秘器で洗浄水は5.5L/回を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用、タイル、ビニル床材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に、容易にそれぞれを取り外すことができる。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が4つ以上ある。	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が5.0未満)を用いた断熱材等を使用している。あるいは発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率53%	4.8	0.33	-	-	4.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		評価する取組み表の評価ポイントの合計値が13~19ポイント	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場は敷地内に十分な余裕を持って計画している。駐輪場は利用者を満たすよう駐車台数を満たし、周辺の渋滞に影響しないよう東側道路からの出入りを行う計画とした。 ごみは原則全て、利用者は持ち帰りのルールとなりますが、管理は隣接する海老名市交流施設と一括管理を行います。一部の事務のごみのみ交流棟との間の通路に車がアクセスし、スムーズに回収を行います	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	